

大堤沼公園インクルーシブ化計画

宮城県仙台第三高等学校 普通科

要旨

広い面積を持つ大堤沼公園は、あまり知られておらず利用者が少ないのが現状である。本研究では、公園を誰もが利用できる「インクルーシブな空間」として作り変え、鶴ヶ谷地域周辺を活性化することを目的としている。先輩から引き継いだ計画をもとに、公園やこの計画に関するアンケートを 1000 部配布し、250 件の回答を得ることができた。そのうちの約 70% の人たちが私達の計画に賛同したが、30 歳未満の若者からの回答が少なく、特に若年層の認知度が低いことがわかった。この若年層と中年層、高年層との「認知のギャップ」を埋めるため、学校や児童館などでの講演活動を通じて、公園の存在や現状について広めていく必要があると考える。

1.はじめに

大堤沼は 1981 年から公園化計画が進められてきたが、自然環境の保護意識の高まりにより、2000 年に計画は中止された。しかし近年、地域活動団体「まるっと鶴ヶ谷」による積極的な働きかけにより、大堤沼の公園化を希望する住民の声が再び高まりつつある。こうした背景のもと、私達は今回、大堤沼を地域活性化のための拠点として再評価し、その可能性について探求していこうと考えた。

2.先行研究

この探究は、先輩方から引き継いで行っているため、公園の構想はある程度できている。

①新遊具・健康器具の設置

ユニバーサルデザインを考えた遊具の設置

②公園の設備の充実

公園には現在、ベンチの数が少ないため、健康ベンチを設置することで充実させたい。また、この公園には駐車場がない。そこで、近くの空き地を駐車場に活用したい。

③草木の伐採

現在、大堤沼公園には草木が多く茂っている、そのため、開発に伴ってそれらを伐採

し、伐採した木が無駄にならないよう、ウッドチップなどに加工し、公園の設備に活用していきたい。

これら 3 つの他に、公園の構想予定の模型などもある。

3.探究方法

この先行研究をもとに、私達は探究を行った。

①アンケート結果をまとめる

先輩方が行ったアンケートをまとめ、探究に対する意見や公園に対する現状の課題や不満を把握した。

②アンケートで得た意見について考える

反対する人の多くは草木の伐採による生態系への影響を恐れている。そのため、それらを踏まえて考えていく必要がある。

③鶴ヶ谷地域に行ったアンケート結果の共有

分析したアンケート結果をまとめ、発表する。鶴ヶ谷住民がどのような考えを持っているかを知ってもらい、私たちの探究に不満を持っている人などに考えを伝える。

4.探究内容

①アンケート結果

アンケートは 1000 部用意し、約 250 人の方から回答をいただいた。そのうちの、7 割以上から賛成をいただき、1 部賛成も

含めると 9 割を超えていた。一方で、反対する住民もいたことがわかった。その人たちの多くは、公園化による自然破壊を恐れていることがわかった。また、若年層の住民は、大堤沼公園を認知していない人が多く見られたため、若年層の住民に、公園の存在だけでなく、現状の問題点など伝えていく必要があると考えた。

② アンケート意見について考える

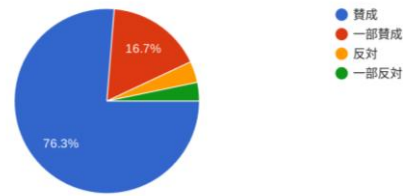
反対意見を持つ住民は、多くの人が自然破壊を恐れていることがわかった。しかし、現状大堤沼公園には、クズの葉と呼ばれるツル性の植物が一面に広がっている。クズの葉は、繁殖力が非常に高く、今後、大堤沼公園全体に広がってしまう。クズの葉は、他の植物に巻き付いて光を遮ってしまうため、他の植物をからしてしまう恐れがあります。そのため、この問題を住民に知ってもらい、早くにもクズの葉の伐採を行う必要がある。

③ 鶴ヶ谷地域に行ったアンケート結果の共有

鶴ヶ谷地域団体まるっと鶴ヶ谷さんの協力により、地域行事で行われるパネルディスカッションに参加させていただき、地域住民や宮城野区の公園課の人に発表を行った。

abstract

Otsutsuminuma Park is underutilized despite its large size. This project aims to turn it into an inclusive park to revitalize the Tsurugaya area. We conducted a survey based on plans from our upperclassmen and collected 250 responses out of 1,000. About 70% agreed with the plan. However, awareness among people under 30 was low. To promote the park's use among the younger generation, we want to hold lectures at schools and children's centers.



↑一部アンケート結果

④ 考察

アンケート結果より、鶴ヶ谷住民の若い人ほど大堤沼公園を認知していない。そのため、小学生や中学生を対象とした出前授業などを行うことで、問題を広いところで認知してもらえ考えた。また、住民の一部の方は公園化による自然破壊を恐れているが、そのままにしたほうが、自然には良くないということを理解してもらい、除草作業の大切さを知ってもらう必要があると考えた。

参考文献

仙台三高 60 回生普通科探究 49 班「大堤沼インクルーシブ化計画」
[探求 49 班](#)